有意義で持続可能な部活動へ

6月28日、「休日の部活動の段階的な地域移行推進協議会」が設立されました。休日の部活動の指導を地域の指導者が担うことで、専門的な指導による生徒の競技力向上や競技団体の活性化を目指すとともに、教員の負担軽減による教育の質の向上を図ります。

災害に備え、関係機関が連携を確認

6月29日、西諸広域中央消防署、陸上自衛隊えびの駐屯地、小林警察署、えびの警察署が、ひなもり台県民ふれあいの森で土砂崩れを想定した災害救助訓練を行いました。訓練には50人が参加し、災害現場活動時の連携方法や救助方法を確認しました。

犯罪や非行のない安心・安全な社会へ

7月1日、「第71回社会を明るくする運動」の内閣総理大臣メッセージ伝達式が市役所で行われました。犯罪や非行、再犯を防止し、過ちを犯した人の立ち直りに理解を深めるための運動で、昨年に引き続き、新型コロナの影響で伝達式のみが行われました。

自分らしい生き方を見つけるために

7月2日、細野中学校で3年生を対象とした、「将来の生き方を考える講演会」が開催されました。旭化成の執行役員や顧問などを歴任された水永正憲（みずながまさのり）氏が、産業界の未来や勤労観などについて講演し、生徒たちに〝生き方〟や〝幸せ〟について問いかけました。

AIなどの技術を活用し課題解決 東大先端研と県内初の連携協定

6月28日、市と東京大学先端科学技術研究センターは、「連携と協力に関する協定」を締結しました。こばやし熱中小学校を通じての交流がもととなり締結につながったもので、今後は市の若手職員が中心となって地域の課題を掘り下げて研究テーマを決定し、同センターが持つ技術や知見で課題解決や地域の活性化を目指します。

締結式にオンラインで参加した神崎亮平（かんざきりょうへい）所長は、「協定を通じて子どもたちの育成や、産業・農業の活性化に少しでも貢献したい」と話していました

参加費をふるさと納税に切り替え 小林市の産品のPRに貢献

6月28日、日本青年会議所九州地区宮崎ブロック協議会（村上和弘（むらかみかずひろ）会長）が市に寄付を行いました。九州内の青年会議所会員が集まる「JCフェスタ2021（開催地本市）」がオンライン開催となったことによるもの。会員の参加費をふるさと納税として寄附し、返礼品を受け取ることで、経済活性化と地場産品PRに貢献する取り組みとなりました。

実施は小林青年会議所が主体となり進められていたもので、村上会長は「せっかくの機会、小林の魅力発信に協力できれば幸いです」と思いを話しました

参加した3年生の松山恋奈（まつやまれいな）さんは、「働く大変さを感じたが、同時に楽しみにもなりました。夢に向かってさらにがんばりたい」と話していました

仕事のやりがいや働く意味を学ぶ 三松中で職業体験講話を開催

6月24日、三松中学校で3年生を対象にしたキャリア教育「職業体験講話～社会人の声を聞く会」が行われました。講話には、講師として7事業所から13人の社会人が参加。生徒たちは10人ほどのグループに分かれて講師のもとを訪れ、それぞれの仕事の内容ややりがい、働くことの意味などについて熱心に耳を傾けていました。

県内の小学校から力作が集まる中での1・2位の快挙

令和3年度歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」小学校上学年の部で南小5年の杉場新（すぎばあらた）さん（写真㊧）と後藤（ごとう）はるのさん（写真㊨）の作品が、県内で1位と2位を受賞しました。なお、小学校下学年の部では野尻小2年大山琉愛（おおやまるきあ）さんが、小学校上学年の部では幸ヶ丘小5年藤本陸（ふじもとりく）さんの作品も佳作として入賞しました。

杉場さんは「自分が歯医者に行った時のことを思い出して書きました。絵を見た人が、丁寧に歯を磨いてくれたら嬉しい」と受賞の感想を話しました

持続可能な社会の実現を目指し 宮崎日日新聞社と連携協定を締結

6月22日、市と株式会社宮崎日日新聞社（河野誠司（かわのせいじ）代表取締役社長）は、国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）の推進に係る連携協定を締結しました。同社と県内自治体のSDGsに関する連携協定締結は初。今後、市職員や市内企業向けのセミナーや小中高生向けの新聞を活用した授業などを行い、SDGs達成に向けて連携していきます。

河野社長は「市の施策や魅力発信に加え、SDGsのセミナーなどを積極的に展開することで、よりよい小林の未来につなげたい」と話していました

クリーン・アクア・ビバレッジからは、2015年から毎年寄付をいただいており、今年で7回目になります。寄付金は施策の推進に活用されます

施策推進のため、株式会社クリーン・アクア・ビバレッジが100万円寄付

6月24日、ミネラルウォーターの販売を行う株式会社クリーン・アクア・ビバレッジ（本坊修（ほんぼうおさむ）代表取締役会長）が市に100万円を寄付しました。贈呈式で本坊会長は、「お世話になっている地元へ貢献することを理念にしている。水を通じて小林の自然の素晴らしさを発信していきたい」と話していました。

池上隊員は卒業後も市内に定住。得意とする動画撮影・編集を活かした魅力発信や人材育成、関係人口の創出をとおして市の活性化のために活動します

地域おこし協力隊の池上翔隊員が３年間の活動の成果を報告

７月12日、地域おこし協力隊の池上翔隊員が、７月末で卒隊するに当たり活動報告を行いました。池上隊員は、平成30年８月にＵターンし協力隊に着任。こばやしマルシェの運営や西諸の魅力を発信する動画の撮影・編集、マーケティングなどの講師として活動。昨年度からは市内の空き家を購入し、ゲストハウスの運営も行っています。

働く世代の健康増進に向けて こばやし健幸づくり推進企業を認定

７月13日、こばやし健幸づくり推進企業認定証交付式が市役所で行われ、株式会社ミヤザキと株式会社FORCUMに認定証が交付されました。このほか、株式会社水耕舎と有限会社西日本ボーリングも同日付けで認定されました。認定企業は、従業員やその家族の健康づくりに積極的に取り組んでいきます。

写真㊧：第１号認定　株式会社ミヤザキの山之上道廣代表取締役
写真㊨：第２号認定　株式会社FORCUMの嶋田順一代表取締役

食を通して郷土を学ぶ「シェフのこばやし食育教室」

７月９日、地元の食を通して郷土に誇りや愛着を持ってもらうための食育教室が、西小林中学校で開催されました。授業では大使館公邸料理人の経験を持つ地井潤シェフが、フードロスや環境保全に対する取り組みの意義をオンラインで説明。地元産の野菜などを多く使用した弁当を、同校２年の生徒たちに振舞いました。

脇田耀平さんは「地元産を中心に約40種類の野菜が使われていることに驚いた。どれもおいしく食べることができた」と感想を述べました

小前さんは「普段から安全に気を付けているが、宣言を機に改めて意識したい。ウオーキングクラブの会員にも広めていきたい」と話していました

高齢歩行者の安全意識向上へ「見ゆぃごっすっど運動」スタート

７月９日、市役所で「見ゆぃごっすっど」宣誓式が開催され、こばやしウオーキングクラブ会長の小前一良さんが宣誓書を読み上げました。高齢歩行者の安全意識向上と交通事故防止を目的とした運動で、宣誓者は「散歩は明るい時間に」、「夜間の外出時は反射材を身につける」など、相手に見つけてもらうような行動や方法を心掛けます。

写真㊧牟田文二社長、写真㊨役員の牟田磯麗さん。株式会社むたホームは昭和48年創業、令和４年で50周年を迎えます

創業50周年を記念して株式会社むたホームが500万寄付

７月１日、不動産業を営む株式会社むたホーム（牟田文二代表取締役社長）が市に500万円を寄付しました。まもなく創業50周年を迎えるのを記念したもので、小林の未来を担う子どもたちのために活用されます。牟田社長は、「50年の節目ということで寄付させていただいた。子どもたちのために活かしてほしい」と話していました。

きゅうり農家就農をめざして

７月１日、アグリトレーニングセンター第３期生の入講式がJAこばやしで行われました。同センターは、きゅうりの栽培管理や経営を２年間学び、新規就農することが目的の施設。今年は山下和義さん（写真：前列左から５人目）が研修生として入講しました。

プロ選手が母校ハンドボール部指導

７月２日、本市出身のハンドボール選手で、ドイツのプロリーグに所属する津山弘巳選手が、母校の小林秀峰高校の男子ハンドボール部を訪問しました。３年ぶりに訪問した津山選手は、後輩たちに動きのアドバイスをしながら、一緒に汗を流しました。

子どもたちのために教育を充実 九州北清株式会社が100万円寄付

６月30日、廃棄物処理事業やリサイクル事業を行う九州北清株式会社が、市に100万円を寄付しました。贈呈式に出席した前野慶太専務取締役は、「コロナ禍で大人だけでなく子どもたちも大きな影響を受けている。体験活動の場をつくるなど、子どもたちの教育の充実に活かしていただきたい」と話していました。

使途を指定した指定寄付金として寄付されており、全額が子どもたちの教育の充実に活用されます

ワクチンの広域集団接種を実施

６月26日・27日、小林市市民体育館で県の新型コロナワクチンの広域集団接種が行われました。２回目の接種は７月18日・19日に行われ、小林市・えびの市・高原町の65歳以上の高齢者を中心に、約1500人が接種を行いました（写真はリハーサルの様子）。

手ごろな食材でイタリアンに挑戦

６月25日、須木総合ふるさとセンターで、すき学園学習会としてイタリア料理教室が開講され19人が参加。講師に平良誠一さんを招き、アサリと大葉の芳醇パスタや野菜のポタージュなどの料理を作りながら、手頃な食材で作れる本格料理を学びました。

スポーツ少年団が全国での活躍誓う

7月14日、全国大会に出場する2つのスポーツ少年団が市長を表敬訪問しました。全国大会に出場するのは、7月29日～8月1日に開催される「第34回全国小学生ハンドボール大会」への出場を決めた三松ハンドボールスポーツ少年団（吉留悠泰主将、写真㊤）と、7月23日～26日に開催される「第26回高野山旗全国学童軟式野球大会に出場する東方野球スポーツ少年団（木場建翔主将、写真㊦）。吉留さんは「スピードをつけてゴールをしっかりねらっていきたい」、木場さんは「みんなで協力し精一杯プレーして、優勝を目指したい」と大会に向けた決意を表明しました。

質疑応答の時間では、生徒たちは客室乗務の仕事の魅力について理解を深めていました

生徒ひとり一人 将来の夢を考える時間に

7月16日、須木総合ふるさとセンターで須木中学校の生徒を対象にドリーム・ジャンボ学園が行われました。ANA総合研究所から市地方創生課に派遣中の外山玲奈さんが講師を務めました。旅客機の客室乗務の経験を交えながら挨拶作法の練習や、生徒同士でコミュニケーションワークを行い、業務内容について質問していました。

郷土の誇り「二原遺跡」 ICTを活用して社会科見学

7月14日、東方小学校で地元文化財の価値・魅力を見直すことを目的とした、オンライン授業が行われました。6年生が二原遺跡について事前に調査・考察した内容を、県埋蔵文化財センターに発表。発表後は同センター職員の谷口さんから詳しい解説があり「着眼点・考察ともに鋭いもので、よく調べられています」と講評がありました。

6年吉ノ園絆さんは「古墳の形や埋葬品から、いろいろな地方の文化と積極的に交流・交渉することに長けていたことがわかった」と感想を述べました

地域の伝統をつなぎます

7月4日、野尻小学校区まちづくり協議会が、野尻小学校体育館で六月灯の灯籠づくりを行いました。灯籠には、野尻小学校の児童が伝統行事の体験授業として絵を描いた和紙を貼り、出来上がった灯籠は、野尻町区域の10事業所で展示されました。

一緒にスマホの使い方を学ぼう

7月の野尻地区生きがい学級では「スマホ体験教室」を行いました。7月9日の紙屋教室には、紙屋中学校の1年生5人も参加。講師から基本操作を教わった後、操作に不慣れな学級生と一緒に、検索や音声入力など、スマートフォンの使い方を学びました。